令和４年度　高大連携授業（前期）授業要目＜科目概要＞

Ｓｙｌｌａｂｕｓ

■従来型授業　　□単位取得予約型授業

		大学等名	秋田県立大学
科目名 (ｻﾌﾞﾀｲﾄﾙ)	〔27〕生物環境科学への招待 （ふるさとの自然環境から地球環境までを見つめるフィールドに密着した科学）	**科目担当者** (学部・学科・職・氏名)	生物資源科学部 生物環境科学科 准教授　井上　誠（計4名）
授業概要	秋田の身近な地域から地球規模に広がる自然環境や生物資源の問題をフィールドに密着しながら発見し、生物資源の人間生活（農林業など）への活用と保全、自然環境の修復と再生などに取り組む生物環境科学を紹介します。		
授業方法と留意点	基本的に、パワーポイントの投影資料による授業です。		

授　業　計　画

【募集定員人数１０名】先着順で募集を締め切ります

＜７月１６日（土）　9：30～11：00＞　教授　宮田　直幸

第１講：「生態系の機能を利用した水環境の修復保全」

生態系やその構成要素である微生物、植物の機能に着目し、湖沼の水質改善や廃水の浄化など、水環境保全の方策について考えます。

＜７月１６日（土）11：10～12：40＞　准教授　早川　敦

第２講：「雨水の行方を追いながら生態系サービスを考える」

雨水が土に浸み込んでから河川水となり、やがて湖や海に到達するまでに、水の性質はダイナミックに変化します。地質や土壌、生物、ヒトとの関わりの中で水の性質がどのように変化するのか、土の中を覗きながら見過ごしがちな生態系サービスを考えます。

＜７月１６日（土）13：20～14：50＞　助教　川﨑　訓昭

第３講：「食糧生産量の予測ってどう行っているの？」

皆さんは、2050年の食糧生産量と需要量を予測したグラフを見たことがあると思います。農産物の生産量がどう変化していくかは、どのように予測されているのでしょうか。シミュレーション（予測）の方法と、その成果について紹介します。

＜７月１６日（土）15：00～16：30＞　助教　田中　草太

第４講：「身近な虫から解き明かす環境問題

－放射能汚染から地球温暖化まで－」

なぜ身近な「虫」であるイナゴ、コオロギ、クモ、ミミズを調べることが、放射能汚染や地球温暖化の問題解明に繋がるのか？生き物を介した生態系の物質循環について考えます。

その他	7/16(土)は昼食を持参ください。（昼食時間：12:40～13:20）			
テキスト	なし			
参考文献	特になし			
関連科目	高校理科　（特に、生物・生物基礎、化学・化学基礎）、地域社会、数学			
開講日時	７/１６（土）			
	９：30～11：00	11：10～12：40	13：20～14：50	15：00～16：30
会場	カレッジプラザ　（秋田市中通２丁目１-５１　明徳館ビル２階）			
欠席連絡先	秋田県立大学 秋田キャンパス 電話：018-872-1529（平日9：00～17：00）　E-mail: akyomu@akita-pu.ac.jp			